

教科【商業：ビジネス情報】

単元名 表計算ソフトウェアの活用
---------------------

[指導項目] 1 表計算ソフトウェアの特徴 2 表計算ソフトウェアの活用
--------------------------------------------

1 単元の目標

(1) 表計算ソフトウェアの特徴と活用方法を理解するとともに、対話型生成 AI に関連する技術を身に付ける。 (2) 表計算ソフトウェアの特徴と活用方法に基づいて、対話型生成 AI の情報を集計・分析して、適切な判断に基づきデータ表として表現する力を養う。 (3) 表計算ソフトウェアの特徴と活用方法の学習について主体的に取り組む。
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

2 単元の評価規準

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
表計算ソフトウェアの特徴と活用方法を理解するとともに、対話型生成 AI に関連する技術を身に付けている。	表計算ソフトウェアの特徴と活用方法に基づいて、対話型生成 AI の情報を集計・分析して、適切な判断に基づきデータ表として表現することができる。	表計算ソフトウェアの特徴と活用方法の学習について主体的に取り組もうとしている。

3 指導の評価の計画（4 時間）

時間	ねらい・学習活動	重点	記録	備考（評価規準・評価方法）
第一次（1 時間）	1 表計算ソフトウェアの特徴 表計算ソフトウェアの特徴を理解する ・関数を利用した集計・分析の手法を学習する。	知	○	・表計算ソフトウェアの特徴を理解している。 ワークシート
第二次（1 時間）	2 表計算ソフトウェアの活用① 対話型生成 AI の特徴を理解する ・ChatGPT を例に対話型生成 AI の得意不得意、質問手法を学習する。	態		・対話型生成 AI の特徴を理解し、積極的に活用しようとしている。 観察 ※ChatGPT については、ガイドラインに従って利用している。
第三次（2 時間）	3 表計算ソフトウェアの活用② 対話型生成 AI を使用し統計データの収集を行い、表計算ソフトウェアを活用して表現する。 ・対話型生成 AI を活用し統計データを集約させデータ表として適切に表現する。	思	○	・表計算ソフトウェアの特徴と活用方法に基づいて、対話型生成 AI の情報を集計・分析して、適切な判断に基づきデータ表として表現することができる。 観察

4 表計算ソフトウェアの活用③	思	・集約した統計データを適切に判断し表現している。 ワークシート
	主	・対話型生成 AI に主体的に工夫し質問することで意図した回答を引き出せるよう粘り強く取り組もうとしている。 観察

#### 4 観点別学習状況の評価の進め方

観点：【思考・判断・表現】

##### (1) 評価の進め方（授業の流れを含む）

本単元の「表計算ソフトウェアの活用」では、知識・技術を身に付けること、情報を集計・分析して、適切な判断に基づき表現することを並行して学習し、ワークシートおよび観察により評価する。

主体的に学習に取り組む態度については、積極的に課題を進める中で自ら問題を発見し解決に向けて粘り強く、また課題を進める中で見つけた様々な問題解決方法を試すことで自らの学習を調整していることを観察により評価する。

##### (2) 評価の実施事例

###### ア 実施事例の概要

ワークシートに記載された統計データの一覧から、表計算ソフトウェアにデータ表として表現したい項目を選択する。その後、対話型生成 AI を活用し、質問の仕方を工夫しながら目的のデータ表を作成することができるかを評価する。

###### イ 評価規準

評価	B	A	C
状況	おおむね満足できる	十分満足できる	努力を要する
	表計算ソフトウェアの特徴と活用方法に基づいて、対話型生成 AI の情報を集計・分析して、適切な判断に基づきデータ表として表現することができる。	表計算ソフトウェアの特徴と活用方法に基づいて、対話型生成 AI の情報を集計・分析して、適切な判断に基づきグラフ作成も見据えたデータ表として表現することができる。	表計算ソフトウェアの特徴と活用方法に基づいて、対話型生成 AI の情報を集計・分析して、適切な判断に基づきデータ表として表現できない。  【手立て】机間指導で質問の仕方についてヒントを与え気づかせる。

#### ウ 評価の考え方

##### ○「おおむね満足できる」状況（B 評価）

対話型生成 AI を使用して、データ表として表現できていれば B 評価が得られるように位置付ける。前時に質問の仕方について授業を行っているため、それらを使用して質問を行い、答えを導き出すことができている場合は B 評価とする。

##### ○「十分満足できる」状況（A 評価）

対話型生成 AI の情報を集計・分析して、適切な判断に基づきグラフ作成も見据えたデータ表として表現することができていれば A 評価とする。

##### ○「努力を要する」状況（C 評価）

対話型生成 AI の情報を集計・分析して、適切な判断に基づきデータ表として表現できない。かつ前時に学習した質問の仕方を活用せずに独自に質問を繰り返している場合は、C 評価とする。